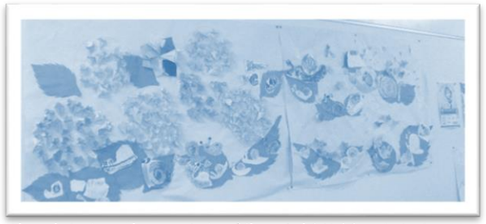
なかよくし　進んで学び　やりとげる

キラリ☆加美っ子

令和３年７月１９日
加美小学校だより
発行　校長 梶並裕子

１学期終了！・・リアルな体験を大切にする夏休みを



外に出れない中、みんなで作った折り紙のあじさいと七夕飾り

加美小学校では、今の時代にどんな体験が子ども達に大切なのか考えています。いつの間にか放課後に家に帰ってから外で遊ぶ子どもが減り、中には家庭でスマホやゲームが離せなくなり、経験やリアルな体験が減ってきて、子ども達の精神的な弱さも全国的な課題になってきました。経験不足からいざというとき、自信をもって行動できないのです。だからこそ、学校にいる時間は、自然に触れ、人と関わり、トラブルもしっかり体験させ、解決できる力をつけたいと、遊び時間を増やしたり総合的な学習の時間を大切したりして地域とともにある学校になるよう考えてきました。しかし、さまざまな活動に制限がかかる中で、計画したことを実行しきることも難しいと感じることも多いです。それでも子ども達が、その中で工夫しながらたくましく進んでくれていることに安心感を覚えます。

夏休みが始まります。どうか、こんな時代だからこそ、子ども達とたくさん会話し、たくさん地域と関わりを持たせ、デジタルの仮想体験ではなく、自分の肌で感じ、自分の言葉で話し、じっくり考える時間と体験をしっかりさせてください。

２年生のお兄さんお姉さん、１年生に学校を案内！しっかりリーダーに

岡山県も新型コロナウィルスの感染状況のステージが引き下げられ、学校も平常の学年間のつながりが戻ってきました。そんな中７月９日、２年生が１年生といっしょに学校探検を行いました。昨年はお兄さんお姉さんにつれられて学校をまわった２年生もすっかり大きくなり、自信満々にリーダーとなって１年生を案内しました。各教室の説明もきっちりこなし、教室で用意されたミッションも、力を合わせて解決していました。

７月２日　第１回「挑戦科」

家を追われ難民となる過程を
シュミレーション学習で学ぶ子ども達

今年で２年目になる「挑戦科」が始まりました。今年になって昨年勉強したことが授業中の発言に出てくることもあり、子ども達が社会に興味をもってきたことがわかります。

今年の１回目は「ごみ問題」「大切な水の問題」「難民問題」「スマホと資源問題」「世界の教育問題」を縦割りグループに分かれ、参加型学習で学びました。普段の自分達の生活からはかり知れない課題に、いつもの学習とは違うメンバーと話し合いながら、どの児童も真剣に向き合いました。

５年生が、コロナ禍のみんなにプレゼント
昼休みに「中庭コンサート」大盛り上がり！

○×クイズで観客を巻き込みます

ダンスはキレキレで、思わず見入ってしまいました

森山直太朗の「桜」の美しい音色が響いて

７月 13 日昼休み、５年生が昼休みに「中庭コンサート」を行ってくれました。今から数週間前、校長室に５年生の代表が「中庭でコンサートをしたいので、許可してもらえませんか？」と訪れました。後から担任の先生に聞くと、学校のためになにができるか学級で話し合って、その頃コロナ禍と工事で外にも遊びに出られない中だったこともあり、学校のみんなを楽しませてくれるために企画してくれたようです。当日は、子ども達がたくさん集まり、美しいリコーダーの音色に聞き入ったり、クイズに答えたりして楽しみました。素敵なダンスでは、自分も踊りたくなった子ども達もいて、おおきな拍手で盛り上がりました。
ありがとう。５年生。君たちの「だれかのために」という心が本当に宝物です。

高学年がこうして学校のためにみんなのために何ができるのか考え話し合って進めてくれていますが、６年生を中心に５年生もリーダーとして育ってきてくれていることを大変嬉しく思っています。高学年がロールモデル（自分がなりたいモデル）として活躍してくれることが、後輩達に刺激をあたえ、恥ずかしがり屋だった加美小学校の子ども達が、前へ前へと自分の良さを表現してきています。新型コロナウィルスに阻まれ、活動の幅が小さくなる中でも、今の生活を充実させようと頑張る子ども達をしっかり応援していきたいです。

７月の『加美♡幸せ人間学』各学級で性教育が行われました。今月のテーマは「性教育」と「メディア」です。各学級で行われた性教育は「お互いの性を大切にし、自分の性を大切にすること」を目指して授業が行われました。４年生以上では思春期を迎える子ども達に男の子の身体や女の子の身体の仕組みと変化をいっしょに学びました。子ども達の感想には、これから起こるお互いの身体の変化を恥ずかしがらず真剣に受け止めながら、尊重する気持ちが多く見られました。